

Sweet Memory of Kanagawa vol.30 南 流石

tvk開局40周年記念プロジェクトとして始まった「カモン！カナガワ」。老若男女みんなで踊る「カナガワダンス」を考案したのは、振付師でダンサーの南流石さん（中央）。南さん主宰のクリエイティブダンスチーム「流石組」の「カナガワダンサーズ」と一緒に登場です。



流石組の皆さん（左から kasuke さん、aya さん、mana さん、fujiko さん）
「カモン！カナガワ」HP <http://www.tvk-yokohama.com/40th/kanagawa/>

身振り手振りで体を使って心も躍らせる 記憶に残るダンスを創り続けたい

広がる「カナガワ」の輪

真心ブラザーズが歌い、私がダンスを考案した「カモン！カナガワ」。声が掛ればどこへでも「カナガワダンサーズ」が踊りに出掛けるというプロジェクトを始めて7カ月。イベントはもちろん学校や老人ホームなど県内40カ所近くを回りました。ジワジワと「カナガワ」の輪が広がっていく様子がよくわかるので本当にうれしい。先日中華街にある加賀町警察署でダンスを披露して。いつもはいかめしい表情の警察署長もニコニコと笑顔で踊ってくれました。ゼロ歳から百歳まで、世代やジャンルを越えてダンスでつながろうというのが私の目指す「ゼロヒャクプロジェクト」。「カナガワ」はその代表的な作品になりました。

桑田さんが命名してくれました

生まれは藤沢です。今は鎌倉に住まいがありますが、片瀬で育ちました。生活の中心にいつも海があったので、失恋すれば海に向かって「バカヤロー！」って叫ぶし（笑）、高校生のころにはサーフィンもやっていた生粋の湘南っ子。ダンスはお稽古ごとのひとつとして3歳から始めました。七里ガ浜にあったパブロワさんのバレエ教室（注：ロシア人のパブロワ姉妹が開いていたクラシックバレエ教室）にも通っていましたね。私は今54歳なので、かれこれ51年、半世紀以上も踊ってるんですよ（笑）。振付の仕事をしたのは20代前半。モダンダンスから始めて、クラシック、

ジャズとやってきて、既成の型ではない、新しいオリジナルダンスを創出し表現したいと、ラッキィ池田などの仲間と一緒に渋谷の路上でパフォーマンスをやっていたんです。そこで声を掛けてくれたのが桑田佳祐さんの事務所の方。奇妙キテレツな踊りを桑田さんにも気に入ってもらえて、KUWATA BANDのコンサートに出演させてもらって。それが今の私の活動の礎になっています。「南流石」という芸名も桑田さんが命名してくれて。「南、サスガだね！」というのが桑田さんの口癖だったんです。

海外へも広げたいダンスの輪

以前、NHKで「おしりかじり虫」という曲の振付も担当したので、町で声を掛けられるとき、「おしり先生！」って呼ばれることも多くてね（笑）。「ダンス踊ってました！まだ覚えてます！」なんて言われるととってもうれしくて。ダンスって心も動くし記憶にも残るんです。「心を躍らせる」をテーマに活動しているので、記憶に残るダンスをこれからも創り続けていきたいです。「ゼロヒャクプロジェクト」を神奈川だけでなく、日本中に、そして、海外へも広げるのが究極の目標。現在、ハワイやサンフランシスコで展開する準備を始めているんです。

南流石（みなみ・さすが）／1958年生まれ。アイドルからCMまで担当した振付は多数。音楽活動も行っており、大塚愛、佐藤タイジなどが参加する新バンドRabbitもプロデュース。デビュー・アルバム『裸人』（2,800円／カッティングエッジ）は12月12日に発売。